

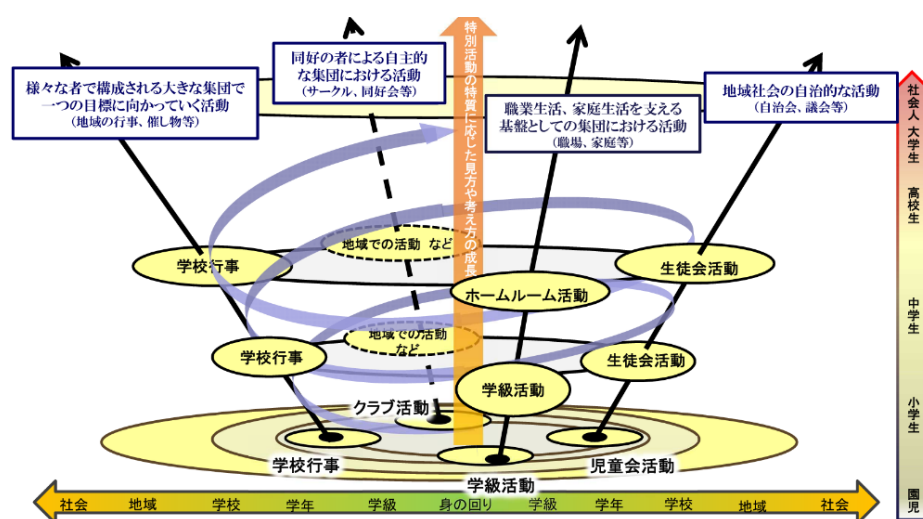
日本の自治活動は学校での自治的活動が基盤にあります

阪神・淡路大震災や東日本大震災の際、災害時に起こりやすい商店からの略奪や支援物資の奪い合いなどは生じず、列に並んで給水を待ったり（写真1）、避難所となった体育館で役割分担を決めて助け合う人々の姿が見られました。これらの様子は海外からは、「商店の襲撃や救援物資の奪い合いは全く見られず、市民が苦境に耐えていることに感動する」（注1）等と驚きをもって受け止められました。

また、サッカーのワールドカップでは、日本人サポーターが観戦のあと、観客席を清掃して帰ることが、各国のメディアにより称賛をもって報道されました。例えば、2022 年の大会では、カタールの衛星放送局アルジャジーラが、スタジアムで日本人サポーターがゴミ拾いをする様子と、日本人サポーターが「これは私たちにとって普通のこと。トイレを使ったら自分で掃除するし、部屋を出るときはきれいにする。それが習慣」とインタビューに答えている様子を放映しました（注2）。私たちは、毎日の清掃活動において「自分達の使った場所は自分達できれいにする」ということ、また遠足にいったときは「来た時よりも美しく」してから帰るということが身についているのでしょう。



断水の為、給水に並び並ぶ笠間市民。出典：Yahoo! JAPAN 東日本大震災 写真保存プロジェクト



左の図は、前回の学習指導要領改訂の際に、特別活動WGで議論された、特別活動と社会とのつながりを示す図です（注3）。特別活動に含まれる児童会活動・生徒会活動、クラブ活動は地域社会の自治的活動の基盤となり、また、特別活動の経験はわたしたちの習慣を作り出します。

特別活動は日本社会の土台を作る大切な活動なのです

注1) ニューヨーク・タイムズ紙のコラムニスト、ニコラス・D・クリストフ氏の1995年1月22日付の記事より

注2) https://www.aljazeera.com/sports/2022/11/24/japanese-fans-win-praise-for-stadium-cleaning-at-world-cup-2022?utm_source=chatgpt.com

注3) 文部科学省特別活動WG 平成28年6月22日資料より